日本国防軍 激突日朝戦争

双竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日本国防軍 激突日朝戦争

【Nコード】

N8352H

【作者名】

双竜

【あらすじ】

2016年のグランドパニックは多大な恩恵と多大な被害を残した。2020年、日本は日本國に変わり練度が世界最強の日本国防軍を創設した。2050年、第3戦略機動艦隊が仮想敵国朝鮮民帝の謎の攻撃を受け甚大な被害を負うが、反撃で1隻撃沈。しかし朝鮮の攻撃はリーダーに映っておらず、日本の攻撃だけ映ってた。朝鮮は不当な越境攻撃という大義名分で日本に宣戦布告する。迫りくる大軍、迎撃する日本。今戦火の火蓋が切っておろされた！

第1話 新生日本

この物語は、全て架空です。

2016年8月8日、地球内の謎の核エネルギー反応で、地球が膨張、全ての国の国土が増え、沈んだ島々が海底の隆起で浮きあがり、日本の北海道より上で、アラスカ州とロシアの間に新しい大陸も出来、そしてそこから天然資源が大量に見えられ、世界が恵まれた・・・とはいかなかった。その反面世界は強力な磁場で、電子機器は荒れ、世界のハイテク携帯やパソコン、無線機器、そしてハイテク軍事兵器も、全てが使用不能に陥り、向こう二週間は使い物にならなかった。

8月22日、国連は、この天災を「グラランドパニック」と名づけ、世界各国首脳を緊急招集、被害の状況を把握、そして新しくできた大陸は、「世界の宝庫」とし、「ワールド大陸」と名付けられ、多民族の移民を受け入れを決定した。これが後の「エルハンド連合共和国」となる。そしてこの頃から、磁場の影響は少なくなり、事態は沈静したが、軍事兵器にはこれまでに無い世代後退が起き、世界各国の軍部は、磁場に強いハイテク兵器製造に躍起になる。そしてこのグラランドパニックから一つの国が、いち早く全てを克服した、それは日本だった。

日本は世界に冠たる工業技術で復興、世界に貢献、そこで引き起こされた景気回復で、日本は出生率の急上昇、そしてグラランドパニックの恩恵の天然資源が大量に発掘されたり、土壌の健全化で、国の資源問題解決、そして食糧生産が非常に良くなった。そして新生日本は2020年1月1日をもって「新平成元年」に変わり、憲法改正で、「日本國」に名称変更、首相が元首になり、天皇一族は、「國主」となり、国の象徴に変わりはなかった。そして憲法九条は変わり、自衛隊の進化形、国防軍が創設された。そして、日本はアメ

リ力を凌ぐ世界最強の軍隊に成長していった。

2050年、日本の人口は、2億4千万人に増え、世界でエルハントに次ぐ大国になり、現内閣総理大臣、伊吹誠元首首相の政策で、工業農業水産業、全てが豊かになり、理想国家になりつつあった。しかし、未だに、韓国、北朝鮮の融合国家「朝鮮民帝」、世界一の国土を誇る「ロシア統一共和国」、軍拡を進める「中華漢族民国」、世界の警察と呼ばれてた大国、「アメリカ共和国」、建国が浅いながら、強大な軍事を有する「エルハンド連合共和国」など、日本は親日の多い「台湾共和国」以外仮想敵国、しかも大国に囲まれていたために、国防軍も増強されていた。

2050年6月7日 新潟県日本海沖100km地点

第3戦略機動艦隊旗艦、ヘリ空母「かいふう」以下イージス3隻、対艦対潜巡洋艦8隻、高速警備艦12隻の計24隻の艦隊が朝鮮共和国Zラインを哨戒をしている。「かいふう」艦長であり艦隊長、長船和沙「おさふねかずさ」二等海佐はため息をつく。平沢雄「ひらさわゆう」三等海佐は気にかける。

「艦長、大丈夫ですか？」

「あ、ああ、何だか嫌な予感がする。例えば朝鮮の中核艦隊接近とか。」

「艦長・・・不吉な事言わないで下さい。ただでさえ最近国際情勢がまずくて、我が艦隊も緊張が絶えないのですから。」

長船の言葉に平沢と周りのクルーは苦笑する。ここに大原機関長がいたら苦笑じゃなくて、喝の一撃をあたえるな、と平沢は思う。

「レーダー、艦隊の所属艦に遅れはないな？」

「大丈夫です副長、我が艦隊はいつも通りです。」

そうか、と呟き前を見るとZラインを越えた朝鮮領に3隻の艦、視界8km先、あんな先でも見えるとは、大型戦闘艦？平沢が横目を見ると、長船も気づいたみたいだ。

「レーダー、先に何か映ってないか？」

レーダーを覗く隊員は首を振り。

「いいえ、晴れてるのに前方の艦を捉えられてません。ステルス艦？いや、この距離ならこの艦のレーダーなら反応するはずです。」

「どちらにしろ警戒する以外に何も無い。」

長船は無線に手を取り、艦隊全体に通達。

「全艦に緊急連絡、至急艦隊散開、高速艦は右舷、左舷4隻ずつ展開、中央には残りを散開、作戦フォーメーションBで行く、第二種警戒態勢。」

部下の艦が動きだす、フォーメーションBはこの第3戦略機動艦隊、一番の防御隊形に変わる。

「艦長、どうしますか。」

「朝鮮領だ、へりを飛ばしたら駄目だろ、ここはあえて定期航路の哨戒行動で行く。」

Zラインまで6000m手前で左旋回、朝鮮艦と並行になる。

「敵は撃ってくるのか・・・。」

艦内は緊張が走る。

「敵が対艦ミサイルを撃ち込んでくれば、国防軍法、国連国際法で日本領朝鮮領関係なく反撃の許可がおりる、しかしこちらに被害が被るのは免れない、そしてステルス以上のレーダー探知能力を攪乱されたら、旧式ながら我が軍自慢の42式短距離対艦誘導弾が使えない。何事もなければ・・・。」

長船の言葉が全員の気持ちだった。その時、朝鮮の3隻の戦闘艦から、それぞれ4本の黒い棒が伸びる。その3隻の上に電気の塊が現れる。

「なんだあれは！」

平沢の大声に負けない声で観測員が叫ぶ。

「艦長！あそこの艦から強烈な磁場反応！グランドパニックの後遺症、まれに起きるナチュラルスパークが人為的になってます！！」

「はあ？！そんなのくらったらただじゃ済まんぞ！」

観測員の言葉に平沢はいらだちを露わにする。長船は無線機を取り

出し。

「全艦、衝撃に備えろ！甲板にいるものは艦内に退避！全力前進！あいつらから早く離れろ！」

長船の指示の前から、部下の艦は危険を察知して「かいふう」の周りに護衛に回りながら、90度左旋回。長船は艦内にも指示を出す。

「機関！エンジンが焼きつくほど加速しろ！」

「了解したよ！機関長の名にかけてな！」

機関長、大原満「おおはらみつる」一等海尉は心強く言う。

長船は後悔した。くそ、心の中でつぶやいた。その瞬間、電気の塊が弾けた。ぴかっと光り、あたりを漂白する、そこから一秒たたず衝撃波が襲う。指揮室が揺れ、長船は倒れこみ、平沢は床に手をつけてしゃがみこむが間に合わず飛ぶ。数秒後、衝撃波がおさまり、あたりが元通りになる。長船は立ち上がりながら胸を押さえる。くそ、あばらがやられた。

「艦長！大丈夫ですか！」

「あばらの2、3本やられたが大丈夫だ。他は！」

指揮室のものから大丈夫ですと返答した。長船は頷いた後無線で叫ぶ。

「攻撃能力のある全艦！42式発射用意！！」

そこに砲撃長、市島哲「いちじまてつ」二等海尉が無線で異を唱える。

「艦長！42式は、映像認識のターゲット追尾式の46式短距離誘導弾と違い、これは旧式のレーダー追尾式誘導弾です！レーダーに映らない艦にはあたりません！」

「それなら目視で撃ち込め！当たらないなら、ばら撒いて敵に威嚇しろ！どうせ来月には46式対応艦に最新改修を全艦に施されるんだ！不要な42式を全弾使っても、文句は言われない！遠慮するな！」

長船は胸の痛みを我慢して劇を飛ばす、長船の激に押されて、攻撃可能艦が一斉に42式を撃ちあげられる。ミサイルは朝鮮艦の近く

に落ち、爆発、水が爆「は」ぜ、水柱が次々上がる。しかしミサイルは当たらず、朝鮮艦がゆうゆうと引き揚げる。長船が悔しくて唇をかみしめたその時3発の対艦ミサイルが長船の艦隊を通り越し、1隻の艦に命中、炎をあげて沈む。指揮室の窓から空を見上げると純国産マルチロール戦闘機、40式万能戦闘機「飛空」「ひくう」又の名をDM-2の三機がきれいな編隊で飛んでいた。46式映像認識追尾式短距離誘導弾を放ったのはこの三機だ。

「こちら新潟海上航空基地所属、第613航空隊です！第3戦略機動艦隊大丈夫ですか？」

「こちら第3戦略機動艦隊艦隊長長船です。援護感謝します。そこから見て、部下の艦は大丈夫でしょうか。レーダーが回復してないのと無線が交信出来ない艦があるので。」

「了解、数えます。」

1、2、3、と航空隊員が数える声に、長船、平沢は息をのむ。

「こちら613航空隊、航行不能艦6隻ありますが、全艦無事です！」

航空隊員の言葉に長船はふうと体の緊張がほぐれる。

「ありがとう。君たちに護衛が頼めるかな、こちらの戦力はすでに20%もない。」

「了解しました。それでは護衛します。私たちは先遣隊で、他にも増援の航空隊がきますので、ご安心ください。あと、新潟軍港から牽引艦も出動しています。しばらくお待ちください。」

「手際の良い空軍にサンクス。それでは交信終了。」

長船は無線を置くと平沢に向って。

「平沢、おれの指揮ミスだな。」

「艦長、違いますよ。艦長は我が艦隊の誇り、艦隊に従事するもの全員恨んでません。」

長船が指揮室内を見回すと、全員艦長に信頼の眼差し、土気の高い眼差しを向けた。長船はこみ上げるものを押さえ、前を向き。

「平沢、あいつらは俺らの手で沈めるぞ。」

「はい!!」

長船は誓った、部下全員を信じると。そしてここまで損害を負わせ
たあの戦闘艦2隻を沈める事を。

第3戦略機動艦隊被害状況

航行不能6隻

攻撃不能12隻

無傷なし

機械損傷全艦

死者0名

重軽傷者全員

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8352h/>

日本国防軍 激突日朝戦争

2010年10月10日21時17分発行